

第1回 神奈川県内科医学会 心臓血管病対策委員会 議事録

日時：平成26年6月9日(月) 19:30～

場所：県総合医療会館 4階 第2会議室

出席者：中、阿古、國島、塚、三谷、陳、岩澤、高橋、浅利、中村、笹生、鈴木、濱田、羽鳥（敬称略）

1. 設立の趣旨説明：羽鳥 副会長（資料 神内ニュース参照）
2. 挨拶：中佳一会長
3. 委員自己紹介
 1. 各委員より自己紹介
 2. 中 会長より委員長指名：國島友之委員長 副委員長は後記
4. 議題
 1. 各地区の心臓血管病対策進捗状況について
 - ① 藤沢地区：中村
 - 基幹病院として藤沢市民病院がある。
 - 市民病院にて2ヶ月に1回循環器研究会（治療困難症例の検討や病診連携の討議）
 - 藤沢市民病院のホットラインにて救急対応
 - 藤沢内科医会で月1回学術講演会を開催
 - その他湘南鎌倉総合病院、藤沢徳洲会病院、藤沢湘南台病院があり、独自の勉強会・地域連携
 - アブレーションの対応に苦慮している
 - ② 厚木地区：笹生
 - 県央地区は脳卒中、心筋梗塞などで輪番制をとり、利用率は30%程度
 - 2次医療圏として3病院
 - 厚木市立病院はホットラインで心筋梗塞患者の救急対応
 - 研究として厚木循環器の会があり東海大の伊刈教授が中心、厚木市立病院も勉強会を開催。内科医会の共催でNOAC。厚木心臓血圧研究会も活動中である。
 - ③ 相模原地区：鈴木
 - 4つのメディカルセンターで1次医療を担い、2次医療圏と連携
 - 循環器や消化器の救急は2.5次の専門病院と3次救急の北里大学で連携し、ACS、心不全、重症不整脈などはICUのある病院で輪番制をとっているが、対応困難時は周囲の八王子、町田市への搬送で対応
 - 基幹病院ごとに3区にわかれ、北里、相模原などがあるが、各病院毎に研究会を開催している。

- 年1~2回勉強会を開催し、国立相模原や北里が医療連携を行っている。
 - 高血圧を対象に、実地医家にガイドラインが普及しているかアンケート調査を行う。
- ④ 横浜地区：三谷
- 内科医会の勉強会への参加は少ない
 - 現在CKDのアンケートを行い100名程度参加。非専門医の先生へCKDガイドラインを広めるため、市内22病院協同でCKD病診連携協議会が発足。紹介時のCr、尿蛋白定性など、結果報告まで共通フォーマットを用意し、22病院ごとの対応も冊子で配布している。
 - 心房細動も心電図、問診・XP・BNPなどから、専門医へ紹介の必要な心房細動、自分でも見れる心房細動の判別を行えるようなシステム構築を検討。治療困難例や高齢者を対象とし、専門医への紹介、さらに逆紹介システムを検討している。
- ⑤ 横須賀地区：岩澤
- ファブリ病のスタディー（H13.12~）
 - 男性+左室肥大（12mm以上）を対象とし、155名中2名の α ガラクトシダーゼの活性が低下を認めたが、遺伝子的には治療対象では無かった。最終的には400名の登録を予定。
 - 肺高血圧のスタディー。心電図異常、動機・息切れ、呼吸器疾患、先天性などから肺高血圧症を抽出することを目的。県内にも広げたい。対象100名、3年の予定。
 - 7年前よりクリニカルパス。糖尿病、脳卒中、心筋梗塞などに対して、うわまち病院、共済病院、医師会の循環器医師などで行っているが、各病院主催のパスとなっている。
 - 共通の勉強会は未開催。横須賀共済病院でのアブレーションは全国から紹介があり、今後病診連携を検討中。
- ⑥ 茅ヶ崎地区：高橋
- 市立病院、湘南東部病院、移転したが徳州会病院などで受け入れ。
 - 他科も含めて年4回症例検討会を中心に勉強会実施
- ⑦ 川崎地区：国島
- 聖マリアンナ、市立病院、日本医科大、幸病院など多くの病院があり、各病院ごとに救急受け入れ可能だが、一部に入院困難な症例がある。
 - このためCCUネットワークを設立し、病院・消防・行政などが連携し、救急隊が効率よく搬送可能となっている。心不全などへも拡大を検討中。
 - 勉強会はメーカー主催が多く、病院ごとのクリニカルパス・医療連携となっている。
- ⑧ 座間地区：浅利
- 緊急手術に対応可能な病院無く、近隣病院（海老名総合・大和成和・大和市立、厚木市立など）へ搬送
 - クリニカルパスは病院ごとであり、まとまったものは存在しない
 - 病院ごとの勉強会は開催しているが、内科医会としての勉強会は未開催。
- ⑨ 海老名地区：濱田
- 総合病院が24時間ホットラインで対応。困難時は県央の救急ネットワークも利用

- 全体での勉強会は未開催

2. ASSAF-K 進捗状況：堺

- ① 平成 25 年 4 月より川崎主導で心房細動の実態調査を企画し、個別・ホームページ・メーリングリスト・各種会議などで、約 150 の医療機関へ広報を行った。平成 25 年 9 月より登録用紙・ネット・専用ソフトなどを活用し登録していただき、平成 26 年 3 月末日まで 80 施設で 3000 例を超す登録をいただいた。
- ② 登録いただいたが記入不備あり、300 例程度使用不可能、その他再調査や精査中である。
- ③ 初回登録のスタディデザインは 9 月の日本心臓病学会（仙台）での発表、登録症例の詳細解析は平成 27 年 3 月日本循環器学会（大阪）で演題応募する。

3. 当委員会の事業計画案について

① 羽鳥：

- 川崎市内を中心に病院診療所で心房細動における NOAC 加療、ワーファリン加療、いまだに抗血小板療法あるいは未治療であるかなどの診療実態調査を行っている。神奈川県医師会倫理審査特別委員会の研究承認、日本循環器学会の後援を得ている。が、さらに県全体での検討が可能か探りたい。第 2 コホートとして調査の拡大検討中である。冒頭でご挨拶を頂いた北里大阿古教授の全国レベルの心房細動研究にも委員会として協力していきたい。学会で発表可能な高いレベルでの研究と、市民啓発と循環器非専門医とともに病診連携をめざし、心筋梗塞・心不全・心房細動などの治療支援・啓発活動などにも取り組むことに意味がある。
- 各地区の勉強会の情報共有、非専門医への啓発活動・情報共有
- 年 2 回程度の委員会が中心となった講演会の開催、年 1 回程度市民講演会も企画できれば良い
- 開業医でも研究を行うことが出来ることをアピールしたい

② ASSA-K の県拡大

- 堺：現在の登録票の記入不備を減らす工夫に関して相談
- 羽鳥：データの登録者、統計解析者は研究に関与せず独立している。大学など大病院では研究参加に院内倫理審査委員会の承認が必要で、登録項目を早急に固定し、依頼開始し、登録に十分な期間を設ける必要がある
- 国島：横浜における治療必要性心房細動の判別をサポート、横須賀の Fabry 病や肺高血圧など県全体への拡大を検討

③ 病診連携への工夫

- 各地区の現状は前述

4. メーリングリスト、加入呼びかけ

- ① 運用中
- ② 他の先生へも依頼予定

5. 会則について

- ① 案の提出
>>次回確認とした。
- ② 副委員長や病院顧問の追加予定
副委員長：三谷先生横浜、陳先生相模原（お二人からは了解を得た）、他数名

6. 次回開催予定

- 日時：平成 26 年 7 月 30 日、20 時～
- 場所：神奈川県総合医療会館